

# グリーンニュース 第12号

発行年月日 平成13年8月10日  
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 新井 榮一

## 環境アドバイザー重点行動テーマ

### 行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

## 10月～12月 マイ・バッグ・キャンペーン

昨年に続き、本年もマイ・バッグ・キャンペーン実行委員会と群馬県の共催で、スーパーマーケット等で買い物をするとき、買い物袋を持参して、レジ袋の受け取りを断る運動“マイ・バッグ・キャンペーン”が10月1日から12月31日までの3ヶ月間、全県一斉に行われます。昨年は2万5千枚以上の応募カードが集まりました。(実質レジ袋50万枚の節約)

運動の輪が広がるよう、皆様の御協力をお願いいたします。(詳細 2ページ参照)

## ヨーロッパ環境視察帰朝報告

平成13年5月17日(木)から27日(日)までの11日間、18名の人達(氏名3ページ参照)がドイツとオーストリアへ視察に行きました。視察報告は、7月7日(土)の宿泊研修会で行われ、ヨーロッパ諸国の“合理性に裏付けされた仕組み等”について、具体的な説明・報告が有りました。参加者の報告書は、後日、お届けする予定。(詳細3ページ)

## 専門部会発足・・・9月から3部門で

宿泊研修会の分散会で、専門部会設立を希望する意見が多く有りました。それを受け、8月2日(水)の連絡協議会の幹事会で、(1)ごみ減量化部会 (2)環境教育部会(3)地球温暖化とエネルギー部会の三つの部会の設立が決まりました。原則的に、三部門とも、3月、6月、9月、12月、の第一土曜日の午後に行う予定です。テーマ・会場等のお知らせは、その都度グリーンニュースでお知らせ致します。アドバイザーの方は、自由にご参加ください。事前の申し込みは不要です。(案内6ページ)

## 群馬県環境フェスティバル

9月30日(日)10:00～16:00 県庁前広場で行われます。アドバイザー連絡協議会は、屋外テントの一つを持って、(1)ヨーロッパ環境視察の写真報告展 (2)マイバッグキャンペーンのPR(3)女性会員を中心とした簡素なフリーマーケットを行う予定です。アドバイザーの皆様も、是非、ご参加ください。その際は、お名前をお知らせください。

## 宿泊研修会報告

7月7日(土)・8日(日)の2日間赤城青年の家で行われました。(詳細4、5、6ページ)

県からのお知らせ

マイ・バッグ・キャンペーンに  
御協力をお願いします



## キャンペーン実施期間 平成13年10月1日～平成13年12月31日

スーパーなどで受け取レジ袋は、家庭ごみの容積の約10%を占めています。ごみ減量化のためには、ごみになるものを家庭にもちこまないことが重要です。昨年に引き続き、県では消費者団体・事業者団体・行政で協力をして実行委員会を発足させ、去る7月9日の第1回実行委員会において「買い物をするときには買い物袋を持参して、レジ袋の受け取りを断る」マイ・バッグ・キャンペーンの実施を決定しました。



### ・・実施内容・・

キャンペーン参加店で買い物をする際、レジ袋の受け取りを断るごとに「応募カード」に1回スタンプを押してもらいます。

20回押印された「応募カード」を実行委員会に直接郵送するか店頭で備え付けの応募箱に入れて下さい。

抽選で電動自転車・旅行券・お米券・図書券・日帰り温泉入浴券などが抽選で当たります。

## 新しい取り組み。。。

### ・店舗独自の取り組みを募集します・・・

お客様の協力により環境に配慮した取り組みを行う店舗が事前に内容を実行委員会に登録。

「プラス・マイ・バッグ」として広くマイ・バッグ運動に位置づけお客様にポイントを。。。

そんなアイデアを参加店舗から募集します。(例えば、トレイ回収に協力してくれたお客様に1ポイント など)

### ・参加店舗の拡大を目指します・・・

昨年度は483店舗の参加がありました。今年は800店を目標としています。重点的に呼びかけるところは、昨年度不参加だった市町村の商店やコンビニ、ドラッグストア、書店、100円ショップ、電気量販店などです。

### ・市町村独自の取り組みを募集します・・・

ごみの減量化を目的とするこのキャンペーンが深く市町村事業と関わっていることから、各市町村からも独自の企画を募集し、県キャンペーンと連携してもらえよう依頼しています。

昨年は環境アドバイザーの皆様にも、店頭で自主的に「マイ・バッグ」の利用を消費者に呼びかけるなど、キャンペーンの原動力として多大なる御協力をいただきました。今年は組織的・計画的に啓発運動を実施し、広く県民運動として「マイ・バッグ」の輪を拡げていくことを考えておりますので引き続き、御協力をお願いいたします。

# 群馬県環境アドバイザーヨーロッパ環境視察帰朝報告

視察グループ 責任者 鈴木克彬

今般、ドイツとオーストリアへ環境問題の視察に行っていましたので、その概要を下記のとおり報告します。

## 記

期 日 平成 13 年(2001 年)5 月 17 日(木)～5 月 27 日(日)

主な視察先等

日付	場所等	内 容	特 徴
5/18(金)	フィッシャー社 マイヤー社  市会議場  エクステーション 中央駅 ホテル	ライプツィヒ市内の分別処理施設視察 生ごみ処理施設視察  ライプツィヒ市の環境政策  環境学習施設見学 L R T (市電) 乗車体験 ドイツの環境政策(今泉みね子氏)講演	堆肥利用(農家へ販売) メタンガスのコージェネ利用 臭気拡散防止対策 原発反対阻止契機 高い環境意識 交通政策, Eネルギ-対策, ごみ対策, 自然景観保全  郊外パークアンドライド
5/19(土)	シュタットフェン	スーパーマーケット, 家庭視察	量り売り, ペットボトルのデポジット, 雨水の利用
5/21 (月)	ミュンヘン	ミュンヘン郡生ごみ処理場視察	機械選別(フルバ-), 堆肥化, メタンガス発電
5/23(水)	ウィーン	ウィーン市中間処理, 緑ごみ堆肥化施設視察	子供へのごみ教育, ごみ有料, 堆肥の有機農場への販売
5/24(木)	ウィーン	アンデルヴァーサー焼却場視察	排気対策, 地域暖房利用
5/25(金)	バーデン	バーデン市内視察, スーパーマーケット買い物体験	

参加者  
鈴木克彬  
(富士見),  
鈴木和子  
(富士見),  
橋田浩一  
(館林), 唐  
澤由貴子  
(吾妻), 菊  
川 照 英  
(前橋), 清  
水紀久弥  
(藤岡), 早  
間 輝 彦  
(前橋), 北  
爪 郁 子  
(境), 長岡  
晴美(甘  
楽), 小阿  
瀬 千 春  
(前橋), 下  
城 茂 夫  
(伊勢崎),  
下城俊子

(伊勢崎), 小此木實次(尾島), 小此木フサ(尾島), 真下淑恵(沼田), 中島資浩(前橋)(以上環境アドバイザー 16 名申込順), 後藤岳(上毛新聞社), 野村研一(群馬県環境政策課) 合計 18 名

ね ら い 環境先進国であるドイツ及びオーストリアを訪問し、各国の方向性、施策、課題等を直接見聞、勉強し、今後のアドバイザー活動の指針とする。

なお、今回の特徴として、施設見学だけでなく直接スーパーマーケット、家庭等も訪問し、ソフト面、国民性等も勉強する。

重点課題 廃棄物対策, 移動・交通対策, Eネルギ-供給, 自然保護, 全項目共通として環境教育

成 果 参加者一人ひとりが目的意識をもって各国の施設や社会生活面に飛び込んだため、EU諸国の合理的な考え方、仕組み等を肌で触れることが出来た。そして多くの面で日本の現状と比較して感服且つ学ぶべき点があり、大きな刺激を受けた。

今後は、この成果を点から点線、実線、面、立体へと広げて行きたい。

# ★宿泊研修会報

7月7日・8日  
赤城青年の家

楽しかったね

～ 分 散 会 ～



## (a) グリーンコンシューマー運動

司会：北爪 郁子 書記：長岡 晴美

昨年来問題提起された「グリーンコンシューマー」という言葉が理解されにくいとのことで、今年も副題が種々出ました。結果としては的確な表現も無く、このままで浸透をはかることと意識統一されました。

運動のひとつとして「マイ・バッグ運動」を県と連携して行う。PRを行政サイドで行う場合は、キャンペーン中でなく、事前段階で流してほしい。方法としては公共放送や新聞などは効果があるのではないかと。

運動の2として、商店に対してバラ売り可能な商品の無包装をよびかける。ごみを家庭に持ち込まない、また持ち込んだトレイは必ず返却する。以上を受けて、マイ・トレイ運動を提案したい。これはある地域で実践中で、容器を持参してトレイを断るといふものです。個人の商店ならば、可能性はあると思われます。

第3として、こどもエコクラブの活動に、グリーンコンシューマー運動を採り入れていただくこと。子どもを通して大人を教育する方向に行けば、との思いです。

以上、当面3つの行動しやすいテーマを挙げて、分散会を閉じました。

## (b) ごみ問題対策

司会：吉沢 書記：高橋

昨年度のまとめとして次のことがあった。

### 1 情報の共有化

各市町村でごみ分別収集の形態が異なるので、アドバイザーが県内各地区の情報を把握する。そして統一した分別収集をもち、行政への働きかけをする。

### 2 住民としてやるべきこと及び課題

各地区のトレイ回収に積極的に参加して、回収の徹底した運動を進める。トレイの再生、活用はどうか。

### 3 行政への要望

生ゴミだけを回収して資源化できないか。30%程度の削減となる。行政との対話をする。ごみ有料化も視野に入れる。行政も組織の変更があっても継続した事業を行ってほしい。

### 4 環境アドバイザーの組織化

アドバイザーの活動目的別組織づくり。今回、ドイツ視察の帰朝報告会があり、ドイツと比較してのごみ問題について、日頃考えていることをそれぞれの立場から話し合った。

ごみ対策は各自治体が全部バラバラで行っている。川上対策が必要である。県内でできることを統一した条例を作って、やっていく要望を国や県にぶつけていく。

企業対策として、我々のパワーをぶつけていき、一つ一つ解決するため、企業とも話し合いをもつ。教育の問題、市民の意識改革が必要であり、アドバイザーが中心となり問題提起をしていく。

県の行政指導の問題。各自治体での対処が異なる。行政への信頼がない。正確な情報を出してもらい徹底した指導を望む。

ごみ処理の有料化の問題も考えていく。

・・・これらの話し合いの中からごみ問題対策専門部会を作り、もう少し掘り下げた討議を積み重ねていく。専門部会の世話人として、とりあえず4ブロックから各1名の人選をした。

北毛 池田、西毛 新井、東毛 高橋、中毛 中島 会合は3ヶ月に1回（原則として第1土曜日）として環境アドバイザーの皆さんに参加していただきたい。

## (c) 環境教育

司会：小嶋 隆市 城田 博巳 書記：村上 和嗣

まず、自己紹介と併せて、各人の地元での環境教育活動の報告を行いました。環境教育は、環境のどういうテーマを扱っていくのか、その範囲が広すぎてなかなか話がまとまりませんでした。おおむね、以下の通りです。

### \* エコクラブからの切り口

・・・「小中学生を対象としたエコクラブの活動が有効」

- 1 身近なところからの働きかけがより効果的である。(ライフスタイルを変えていくのはかなりの労力が必要となるため。)
- 2 地域の中で、大人と子どもが気軽に集える“場作り”が大切。
- 3 子どもが自ら選んで、楽しみながらやってみる体験活動が重要。
- 4 ゆくゆくは、この子ども達が、地域のサブリーダーやサポーターに育っていくのが望ましい。

### \* 学校現場を巻き込んだ切り口

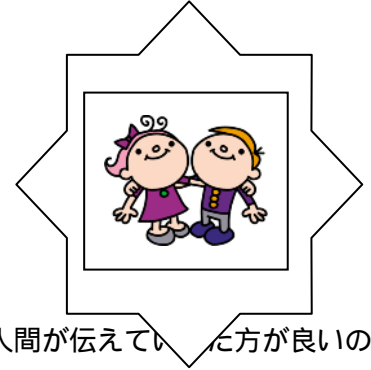
・・・「学校支援隊制度」や「チームティーチング」

- 1 短期間で替わってしまう教師よりも、地域の自然・文化の指導は地元の人間が伝えていく方が良いのでは。
- 2 “総合学習”の時間の有効活用。
- 3 2002年からの完全週5日制による休日の有効利用。

\* 単なる知識の詰め込みではなく、主体的な体験に基づく取り組みでありたい。

\* またそれらが、その時だけの特別なイベントで完結しないよう、その後の日常にも活かされるものであってほしい。

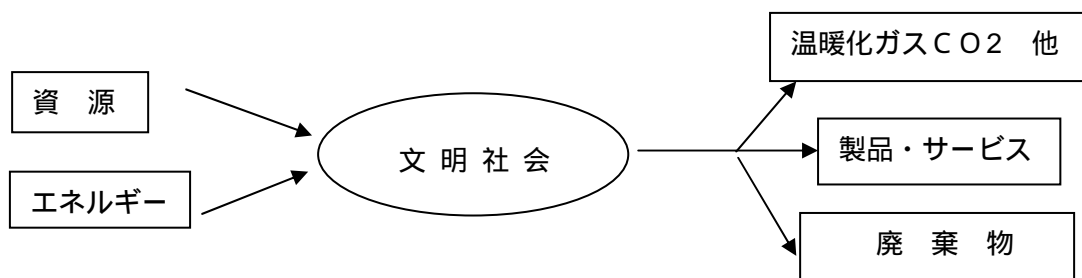
今後、専門部会を設置し、より一層お互い学び合っていきたい、ということになりました。



## (d) 地球温暖化部会とエネルギー部会

司会進行：片亀 光

地球温暖化部会とエネルギー部会が討議目的・内容が類似していることから当日、急遽合同することとなった。部会の振興は最初に部会会員の自己紹介から始まり、和やかななかにも時間が経過するにつけ白熱してきて研修時間の短さを参加者一同が感じたことと思う。



既存エネルギーと新エネルギーのうち、新エネルギーは今後活用が期待される再生可能なエネルギー資源群として新エネルギーを暗黙の内に選ぶ。群馬県が活用している新エネルギーには 小水力発電 風力発電 ソーラー発電がある。県として設置を検討したが反対にあい断念したものに 地熱発電、がある。現在検討中は木質系バイオマス関係である。バイオマスは県林業試験所で研究中である。参加者から「県独自の研究もよいが、産官学で研究のスピードを上げるべきである」との意見も。時間を忘れてバイオマスで白熱する。

翌日は省エネについての討論。夏場におけるビル内の冷房温度の設定とトップダウンによるノーネクタイの励行 100年住める住宅の奨励(二重窓効用) 公共交通の利用と自転車通勤(雨天時の合羽紹介) 特に については県に提言したい。又、昨年米の不作に見まわれた東毛地域を注意地域と指定して、温暖化との因果関係を観察してほしい。

決議事項として「地球温暖化・エネルギー専門部会」を立ち上げる。

(文責：菊川 照英)

# 。。。全体会報告。。。

## A 分散会報告（内容は、分散会報告 参照）

(a) グリーンコンシューマー運動	参加者 7名	報告 長岡（甘楽）
(b) ごみ問題	参加者 15名	報告 高橋（境）
(c) 環境教育	参加者 13名	報告 村上（上野）
(d) 地球温暖化・エネルギー	参加者 9名	報告 菊川（前橋）

## B 専門部会に関すること

- 1 ごみ問題、環境教育、地球環境・エネルギーの分散会で、今後、専門部会化することが意思統一された。グリーンコンシューマー運動については、ごみ問題部会の一機関として考えたい。
- 2 但し、会場、開催日、案内等については、種々の対応が必要なため、8月1日に行われる幹事会で検討し、実施方を進めたい。

## C 群馬県がすすめる“エコDo!”の説明

- 1 ごみを減らす、というミッションを、県庁はじめ全県機関で取り組む。
- 2 省エネ対策に取り組む。
- 3 グリーン購入を実施する。
- 4 両面コピーの完全実施等、ムダ排除の節約対策に取り組む。
- 5 自動車利用を極力減らす。 等々

## D その他発言された意見

- 1 日本は、EU諸国と比較すると、合理性を柱とした“仕組み”ができて
- 2 そのためには、行動とシステムづくりが必要。
- 3 温暖化対策に自動車対策が不可欠。市町村・企業等も自転車通勤の奨励
- 4 子ども達は、教育は受けているが、実行する力が身につけていない。
- 5 最近のイベントは、イベント主義的なものとなり、生活実感と結びつかなくなっている。
- 6 日本には、どうしてデポジット制度が定着しないのか。もっと実現化を働きかけるべきではないか。

以上（文責：鈴木 克彬）



## 専門部会の設立と参加のご案内

長年の懸案事項であった群馬県環境アドバイザー連絡協議会主催の専門部会が設立されることになりました。部会は下記の部門でスタートします。アドバイザーの皆様の中で関心のある方は、自由にご参加下さい。（申込不要・当日参加で可）

開催日：いずれも平成13年9月1日（土）13：30～16：30

開催場所：群馬県社会福祉総合センター（新前橋駅近く）

部会名及び会議室名

A	ごみ問題	2階	201会議室
B	環境教育部会	4階	401会議室
C	温暖化対策・エネルギー部会	4階	402会議室

会費 不要

テーマ 初回のため、部会の趣旨に基づき、皆様で決めて下さい。

注記 部会名は仮称です。専門部会の皆様で決めて下さい。開催日は年4回とし、3・6・9・12月の第1土曜日の午後とします。専門部会の世話役は各部会で決めて下さい。会場は当面、社会福祉総合センターとします。将来は県庁昭和庁舎を考えています。今後の案内は、原則としてグリーンニュースで行います。